

## 研究主題 「複数の資料に含まれている情報を比較・関連付けながら 自分の考えをまとめることができる児童の育成

－思考を可視化する工夫を中心に－

東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
墨田区立横川小学校 主幹教諭 中嶋 康彦

### 第1 研究のねらい

「小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月）」の「第1章 総説」には、「2 国語科の改訂の趣旨及び要点」において「全国学力・学習状況調査等の結果によると、小学校では、（中略）目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題があることが明らかになっている。」と述べられている。加えて、学習指導要領に「情報の扱い方に関する事項」が新設されたことも触れられている。また、平成30年度から過去5年分の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）において、「読み解く力」のうち「比較・関連付けて読み取る力」に関する問題の正答率の平均は、49%であった。「平成30年度全国学力・学習状況調査報告書」においても、「複数の資料の内容を関係付けて理解したり、表現したりすることに課題がある。」と示された。

そこで本研究では、主体的に取り組む学習過程や思考を可視化する教材・教具、資料について多様な視点から読む学習活動の工夫をまとめた単元開発をし、指導を行うことを通して、複数の資料に含まれている情報を比較・関連付けながら自分の考えをまとめることができる児童を育成することをねらいとする。

### 第2 研究仮説

高学年の説明的な文章の学習において、主体的に取り組む学習過程や思考を可視化する教材・教具、資料について多様な視点から読む学習活動の工夫をまとめた単元開発をし、指導を行うことを通して、複数の資料に含まれている情報を比較・関連付けながら自分の考えをまとめることができる児童が育つであろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

国や東京都の資料（「これからの時代に求められる国語力について」、「小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月）」、「東京都教育ビジョン[第3次・一部改定]」等）並びに「平成29年度全国学力・学習状況調査」及び「平成29年度東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、思考力・判断力・表現力等を伸ばすために、複数の資料に含まれている情報を「比較する」、「関連付ける」ことによって、考えを形成する資質・能力を育てる指導が求められていることが明確になった。また、この資質・能力の育成に向け、思考ツールを活用した先行研究の調査を行った。

#### 2 調査研究

平成30年7月、都内公立小学校の第5学年児童（89人）と教員（18人）を対象に、国語科の説明的な文章の学習において「複数の資料を比較・関連付けること」についての意識調査を行った。説明的な文章を読む際に、「読む目的」や「資料の内容」、「筆者の主張」（図1のA群）について「気を付けて読む」と回答した児童の平均は84.5%、「気を付けて指導している」と

回答した教員の平均は 94.3%であった。一方、「比較・関連付けること」(図1のB群)について「気を付けて読む」と回答した児童の平均は 77.8%、「気を付けて指導している」と回答した教員の平均は 77.5%であった。

【児童】 説明的な文章の学習において資料を読むときに気を付けていること				【教員】 説明的な文章の学習において児童が資料を読むときに、気を付けて指導していること					
※あてはまる ※どちらかといえばあてはまる ※どちらかといえばあてはまらない ※あてはまらない (%)				※あてはまる ※どちらかといえばあてはまる ※どちらかといえばあてはまらない ※あてはまらない (%)					
読む目的を考えながら読むこと		38	52	9	読む目的を考えながら読むこと		59	35	6
読む目的に応じて、必要な内容を見つけること		45	40	13	読む目的に応じて、必要な内容を見つけること		59	35	6
筆者が言いたいことを伝えるために、どんな理由や例を述べているかをつかむこと		40	40	14	筆者が言いたいことを伝えるために、どんな理由や例を述べているかをつかむこと		76	18	6
筆者がどのような感想や意見をもっているのかをつかむこと		41	41	15	筆者がどのような感想や意見をもっているのかをつかむこと		70	24	6
似たような自分の経験と資料の内容を比べたり関連付けたりすること		28	47	23	似たような自分の経験と資料の内容を比べたり関連付けたりすること		29	59	12
資料同士を比べて、内容や意味の似ているところをつかむこと		37	41	16	資料同士を比べて、内容や意味の似ているところをつかむこと		29	42	29
資料同士を比べて、内容や意味の違うところをつかむこと		38	40	17	資料同士を比べて、内容や意味の違うところをつかむこと		41	35	24
読んで分かったことについて、資料同士の内容を結び付けて自分の考えをまとめること		37	40	16	読んで分かったことについて、資料同士の内容を結び付けて自分の考えをまとめること		41	35	18

図1 読むことに関する意識調査

「読む目的」や「資料の内容」、「筆者の主張」に気を付けて読むこと(指導すること)に対しては、児童、教員共に高い意識であることが確認できた。しかし、「比較・関連付けること」に気を付けて読むこと(指導すること)に対しては、「読む目的」や「資料の内容」、「筆者の主張」に気を付けて読むこと(指導すること)と比べると、児童、教員共に意識が下がることが分かった。

### 3 開発研究

#### (1) 主体的に取り組む学習過程の工夫

##### ア 児童が学ぶ必然性に気付く活動を、学習過程に位置付ける。

単元で身に付ける資質・能力を育成する言語活動を位置付ける。具体的には、児童が意見文を書いて自分の考えをまとめるために、必要なことを児童自身の言葉で想起させることを通して、児童が目的(根拠や理由をもち、意見文を書く)の達成に向けて必要な事柄を学ぶことができるようにする。児童が意見文を書いて自分の考えをまとめていくことを意識させることを通して、本教材を読む必然性をもたせ、主体的に学習に取り組めるようにする。

##### イ 評価規準と一貫性のある振り返りをして、身に付いた資質・能力を自覚する。

毎時間の終末に、評価規準に基づいて振り返りを行う。本単元での振り返りは、単元で身に付ける資質・能力(指導事項)に基づいて設定した評価規準を児童が自己評価できるような内容にした。

#### (2) 思考を可視化する教材・教具の工夫

##### ア 目的に応じて、資料から取り出した情報を付箋に書き、表に整理する。

意見文を書く上で、資料を読んで見つけた「根拠」となる情報を引用して付箋(青色)に書き、表にまとめる。「根拠」となる情報を見付けていくためには、資料を読む際に、自分の立場から情報を選択する必要がある。付箋を使って表にまとめることを通して、自分の考えを整理することができる(図2)。

##### イ 「根拠」と「意見」をつなぐ「理由付け」を言語化し、自分の考えを整理する。

「根拠」「理由付け」「意見」の考え方を取り入れ、児

資料6	資料5	資料4	資料3	資料2	資料1
の資料から引用⑥	の資料から引用⑧	の資料から引用⑥	の資料から引用④	の資料から引用③	の資料から引用①
の資料から引用⑩		の資料から引用⑦	の資料から引用⑤		の資料から引用②

図2 情報取り出し表

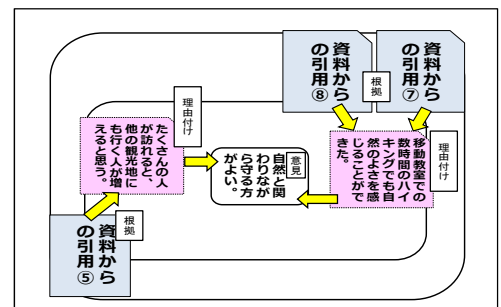


図3 意見文チャートマップ

児童が自分の考えを、視覚的に捉えるための思考ツールを開発した(図3)。「根拠」と「意見」をつないで、より説得力のある意見文にするため、「根拠」と「意見」のつながりを自分なりに説明した「理由付け」を付箋(桃色)に言語化して、一つのツール内に可視化できるようにする。「根拠」や「理由付け」を書いた付箋を操作し、「根拠」「理由付け」「意見」のつながりを意識して配置する。このことにより、意見文チャートマップを使い、友達と共有する際にも、児童自身や他者がつながりの分析をしやすくなる。

ウ 筋道の通った意見文を書くために、文章構成表に自分の考えを整理する。

本研究でいう筋道の通った意見文とは、相手に自分の意見が分かりやすく伝わるように、自分の「意見」「根拠」「理由付け」のつながりが一貫した展開となるよう、論の進め方に注意して組み立てた文章のことである。文章構成表(図4)を活用し、段落の内容のつながりを可視化できるようにする。具体的には、意見文チャートマップで活用した付箋を文章構成表の「中」の段落に移動し、

終わり	中			はじめ
自然と関わりながら守る方がよいと思います。	資料引用⑤	資料引用⑥	資料引用⑦	世界遺産の白神山地を守るためには、自然と関わりながら守る方がよいということが私の意見です。
これらのことから、私は、	たぐさんの人が訪れると、他の観光地にも行く人が増えると思う。	移動教室での数時間のハイキングでも自然のよさを感じることができた。		

図4 文章構成表

文章構成表を作成することで、児童が意見文を作成する前に、文章全体の構成を確認できる。

(3) 資料について多様な視点から読む学習活動の工夫

意見文チャートマップを活用し、児童が自分の立場で意見を出し合う場面を設定した後、さらに、自分の立場とは異なる立場でも意見文チャートマップを作成して意見を出し合う。児童が自分とは異なる立場に立つことで、意見文を書く際の立場の「根拠」と「理由付け」と「意見」との整合性について客観的に捉えることができるようにする。また、異なる立場に立つことで、単なる二項対立的な考え方を超えて、より深く題材について理解できる。

4 検証授業及び検証授業の分析

(1) 検証授業の概要

都内公立小学校第5学年において、次のような単元計画(全10時間)で授業を実施した。

検証授業の概要(全10時間)

学習過程	時	ねらい	思考ツール等
学習①見通しをもつ。	一次 1	○教材文を読む必然性を知り、単元の見通しをもつ。	教員が作成した例文
複数の情報から根拠を②取り出し、③比較・関連付ける。	二次 2・3 4・5 6・7	○複数の資料を読み、自然保護の考えを述べるための「根拠」となりそうなところを取り出す。 ○自分の考えの立場を決めるための「根拠」と「理由付け」と「意見」とを関連付け、整理する。 ○異なる立場でも「根拠」と「理由付け」と「意見」とを関連付けることで、考えを広げる。	情報取り出し表 意見文チャートマップⅠ 意見文チャートマップⅡ
複数の情報を基に、④自分の考えをまとめ、広げる。	三次 8・9 10	○自分の考えとその「根拠」と「理由付け」と「意見」とを文章構成表に整理して、意見文を書く。 ○友達と意見文を読み合ったり、自己内で本単元の振り返りを行ったりする。	文章構成表 意見文

(2) 検証授業の分析

授業の目標の実現状況を児童に問う形成的授業評価(3件法)を、毎時間の終末に行った。第10時の「複数の資料にある文章やグラフなどから分かったことを引用して、自分の考えが伝わるように意見文にまとめられたか。」という振り返りにおける自己評価において、99%の児童が「よくできた・できた」と回答した。しかし、1%の児童が「あまりできなかった」と回答

した。そこで、「あまりできなかった」と回答したA児の意見文（図5）を分析すると以下のことが分かった。

- ・ 複数の資料からの情報を「根拠」としている。
- ・ 「意見」と「根拠」をつなぐ、「理由付け」を的確に書くことができている。
- ・ 自分の考えに合うよう、意見文を書くことができている。

これらのことからA児は、「複数の資料に含まれている情報を比較・関連付けて自分の考えをまとめる」ことができているにもかかわらず、A児自身が自覚できていないことが分かった。

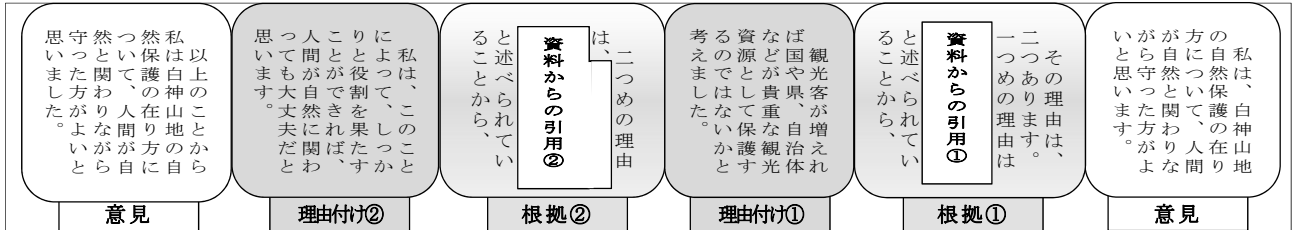


図5 A児の意見文

また、「根拠」「理由付け」「意見」がつながるように意見文チャートマップにまとめた際の振り返りを分析すると、第5時の振り返りで「よくできた」と

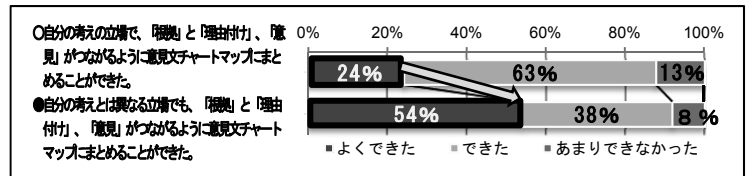


図6 第5時(○)・第7時(●)の振り返り

「よくできた」と回答している児童は54%となり、30ポイント増加した(図6)。これは、第6時で論の進め方に視点を置き、意見文チャートマップを基に、自分の考えとは異なる考えをもつ友達と「根拠」「理由付け」「意見」のつながりを共有したことで、児童が「根拠」「理由付け」「意見」のつなげ方を理解できた結果から数値が上昇

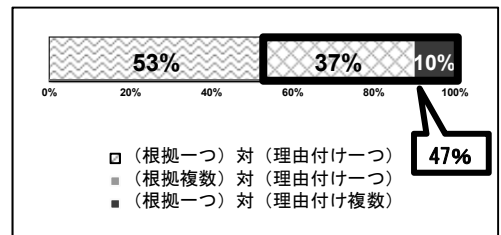


図7 「根拠」と「理由付け」のつなげ方の分析

したと考える。さらに、第7時の意見文チャートマップを分析すると、複数の「根拠」に対して一つの「理由付け」又は一つの「根拠」に対して複数の「理由付け」をしている児童が47%いることが分かった(図7)。一つの「根拠」に対して一つの「理由付け」をしていた児童の中には、共有場面において他の児童の意見文チャートマップを見た後、自分の意見文チャートマップを見直して「根拠」又は「理由付け」のどちらかを追加して複数にした児童もおり、共有場面が児童の学びにとって効果的であったと考える。

#### 第4 研究の成果

- ・ 学習過程、教材・教具、学習活動を工夫した単元開発は、複数の資料に含まれている情報を比較・関連付けながら自分の考えをまとめることができる児童の育成に有効であった。
- ・ 意見文チャートマップで児童の考えを可視化できるようにしたことにより、共有場面においても「根拠」「理由付け」「意見」のつながりを他の児童が明確に捉えられるようになった。

#### 第5 今後の課題

- ・ 児童が行う振り返りの内容を、教員が更に改良することで、児童自身が身に付けた資質・能力を的確に自覚し、次時もしくは単元で活用できるようにする。
- ・ 開発した手だてを学年や教科の枠を越えて活用することで、汎用性を高めていく。